

モダン建築に泊まる



Photo : Koroda Takeru



京都市京セラ美術館開館以来初の
キャンプ開催を
THE NORTH FACE のテントで！
秋の夜長に一夜限りの美術館を楽しむ
プレミアムなお泊まり体験。

THE NORTH FACE を代表するテント、
バックミンスター・フラー監修「2-METER DOME」の
鑑賞・解説から夜のコレクションルームツアーや
ワークショップまで、
親子で楽しむ夜の美術館は一生の思い出に。

日時：11月10日(金) 午後7時30分～11月11日(土) 午前9時(予定)

所在地：京都市京セラ美術館 京都市左京区岡崎円勝寺町124

最寄り駅：地下鉄「東山」、市バス「岡崎公園 美術館・平安神宮前」「岡崎公園 ロームシアター京都・みやこめっせ前」

対象：小・中学生とその保護者

定員：10組(1組4名まで、要事前申込)

参加費：1テント48,000円(消費税込)

※シュラフ・軽夜食・朝食・フラーテントを紙で作るワークショップ・夜の美術館ツアー費・保健料等込

集合場所：本階1階 旧西玄関

宿泊場所：本階1階

参加方法：「京都モダン建築祭」ウェブサイトより要事前申込 ※希望者多数の場合は抽選

<https://kenchikusai.jp/program/detail.php?id=5172>

抽選受付期間：10月2日(月)～9日(月・祝)

抽選結果：10月10日(火) 配信予定 ※以降空きがあれば先着順に受付し、10月25日(水)に最終締切



二十世紀のレオナルド・ダ・ヴィンチ バックミンスター・フラーの思想と技術を継承する THE NORTH FACE のドームテント



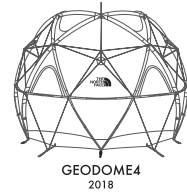
THE NORTH FACE の若き創業者ケネス・ハップ・クロップ、プロダクト・デザイナーのマーク・エリクソン、製造部門責任者ブルース・ハミルトンは、当時主流の A フレーム型テントに代わり、バックパックに詰めて一人で運ぶことができる軽さと頑丈さを備え、かつ十分な居住空間をもつ新たなテントを模索。1975 年「二十世紀のレオナルド・ダ・ヴィンチ」と呼ばれた天才思想家、工学者のリチャード・バックミンスター・フラー監修のもと、常識を覆す新形状のテント《OVAL INTENTION》を生み出す。コンセプトは最少のもので最大の効果を得ることを意味するフラーの造語「ダイマクション」。通常のテントは複数の直線ポールでテント本体を支えるが、弓状になるシャフトタイプのポールを骨組材とし、垂直の柱が一本も無い。このテントは THE NORTH FACE の未来を決定づける大ヒット商品となった。1976 年には、イギリス・カナダ合同隊によるパタゴニア遠征に採用。風速 200km とも伝えられる暴風雪に、従来のテントがごとく吹き飛ばされていくなか、唯一強風に耐え、隊員たちの命を守り抜いた。1984 年、同じくフラー監修による《2 METER DOME》を発売。半径 2 メートルの大型ドームテントで、ヒマラヤ遠征をはじめ現在も多くの極地探検隊に採用されている。《OVAL INTENTION》の誕生から 43 年。2018 年にはフラーのジオデシック・ドーム理論を継承しながらも根本から設計を再考した《Geodome 4》が誕生。宇宙船を思わせるユニークな外観、耐風性や強度を担保するためのワイヤー補強、立ち仕事も可能な広々とした居住空間を実現。「快適な住環境が幸せを生み出す」という偉大な思想家、工学者が残したメッセージは、さまざまに進化を遂げながら地球上のあらゆる場所で、現在も生き続けている。



OVAL INTENTION
1975



2-METER DOME
1984



GEODOME4
2018

ジオデシック・ドーム (通称フラードーム)

フラーの技術と発明のなかでも最も多くの人々に知られた三角形の安定性を応用した半球形構造体。「ジオデシック」とは球体上の二点を結ぶ「測地線」のこと。最少の表面積で最大の体積を持つ形態が球体であるという原理を応用し、最軽量にして最強かつ高い耐久性を持つ居住空間が実現できることを証明。南極や富士山頂などの過酷な環境下でも採用された。1950 年代半ばに特許取得し、世界中につくられたジオデシック・ドームの数は 20 万棟を超えるとも言われる。

リチャード・バックミンスター・フラー

1895 (明治 28) 年アメリカ北部マサチューセッツ州生まれ。フランク・ロイド・ライトやイサム・ノグチらと親しい交流を持ち、建築学、幾何学、自然科学、人類学を横断した独自の領域を開拓。地球を太陽エネルギーで動き、乗組員 (人類) の生命を維持する船「宇宙船地球号」と喩え、サスティナブルやエコロジーといった全地球規模の問題を提起しその解決策を示唆し、次世代の多くの建築家たちにも多大な影響を与えた。代表作に、ジオデシックドーム (通称フラードーム) やモントリオール万博アメリカ館など。主著 (邦訳書) に『宇宙船地球号操縦マニュアル』(1968 年)、『バックミンスター・フラーのダイマクションの世界』(1960 年) など。1983 (昭和 58) 年没。

